

荒川水系から発見されたプラナリアの外来種

石井克彦（川の博物館）

埼玉県大里郡寄居町を流れる荒川と、埼玉県比企郡を流れる都幾川にて外来種のアメリカツノウズムシを発見したのでここに報告する。

日本の淡水プラナリア類は、未記載の2種を含めて3科8属27種ほどが知られている。これらのうち、トウナンアジアウズムシ *Dugesia austroasiatica* Kawakatsu, 1985 (cf. Kawakatsu et al., 1985), アメリカナミウズムシ *Girardia tigrina* (Girard, 1850), アメリカカツノウズムシ *Grardia dorotocephala* (Woodworth, 1897) の3種類の外来プラナリアが確認されている。(川勝ら, 2007)

アメリカカツノウズムシの外部形態および特徴

アメリカカツノウズムシの原産地は北米大陸、北アメリカから中央アメリカにかけて広く分布する種で、体長12-20mm、体表には茶褐色～黒褐色の細かい色素点が見られる。頭部は正三角形に近く、耳葉は長く尖っている。両眼の間隔は広い。

日本では2003年に碧南市（愛知県）の水族館の水槽から見つかったのが最初の記録で、その後、京都市（鴨川）から野外定着個体群が発見された（Kawakatsu et al., 2007）。

関東近県では山梨県の昭和町、中央市を流れる山王川で生息が確認されている（堀内, 2010）。

発見の経緯

2012年10月17日、博物館に訪れていた学校の授業対応時に大里郡寄居町小園の荒川から見慣れないプラナリアを採集した。その後、博物館に持ち帰り調べた結果、外部形態の特徴からアメリカカツノウズムシ *Grardia dorotocephala* (Woodworth, 1897) と同定した。また2012年10月19日ときがわ町玉川の都幾川で採集した。

調査方法

2012年12月29日に埼玉県比企郡ときがわ町大野から比企郡嵐山町千手堂間の都幾川で、

水温・COD・生息状況を調査した。CODはパックテスト（株式会社 共立理化学研究所）を用いて測定した。水温はエー・アンド・デイ（AD - 5624）を用いて測定した。生息状況の調査は石を裏返し目視にて各地点とも10～15分間行った。

調査結果

地点⑥、ときがわ町玉川小学校より200m上流からアメリカカツノウズムシが見つかった。また、⑥より下流の⑦⑧ともに発見できた。地点⑨、都幾川合流点より300m上流の槻川でも発見できた（表1、図1、図2）。

国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課発行の「平成16年度版水生生物による水質の簡易調査」によると都幾川・東松山橋と越辺川・八幡橋でプラナリア類が確認されている。特に八幡橋では多数出現種として確認されているが、本種を含めたプラナリア類の考察はされていない。

考察

外来種であるアメリカカツノウズムシが河川生態系の中でどのような影響をもたらすのか注視しなければならない。

生物を指標とした水質判定は学校教育の場でも環境学習の題材として取り上げられている。特にプラナリアの仲間は水質判定において「きれいな水」とされる指標生物として取り上げられてきた。「川のいきものを調べよう・水生生物による水質判定」河川環境管理財団、平成15年発行当時は外来のプラナリアについては触れていない。国土交通省河川局が発行する平成23年度版の「川のいきものを調べよう・水生生物による水質判定」下敷きにはアメリカカツノウズムシが指標種ではないと表記されているが、今後水生生物による水質判定調査において在来のプラナリアと外来のプラナリアはルーペなどを用いて拡大し観察することで区別は可能であることから在来種、外来種を一括してプラナリアとして記録せず区別するべきである。これからは荒

表1 都幾川COD調査

	調査地点名	COD	水温	
①	大野	1	5.1℃	ナミウズムシ確認
②	西平	2	5.5℃	ナミウズムシ確認
③	三波石	2	4.6℃	
④	本郷	計測無	5.8℃	
⑤	明覚小学校前	2	6.1℃	
⑥	玉川小学校前	2～3	6.1℃	アメリカツノウズムシ確認
⑦	鎌形	2～3	6.9℃	アメリカツノウズムシ確認
⑧	都幾川・槻川合流点	2～3	8.6℃	アメリカツノウズムシ確認
⑨	槻川	2	4.8℃	アメリカツノウズムシ確認

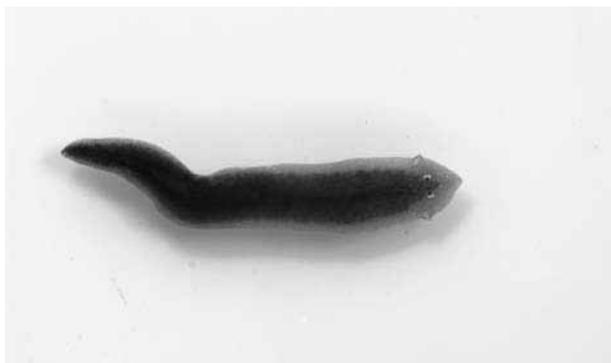


写真1
アメリカツノウズムシ



写真2
アメリカツノウズムシが見つかった地点
都幾川・ときが町玉川小、上流 200 m



写真3
アメリカツノウズムシが見つかった地点
都幾川・嵐山町鎌形



写真4
アメリカツノウズムシが見つかった地点
槻川・嵐山町千手堂

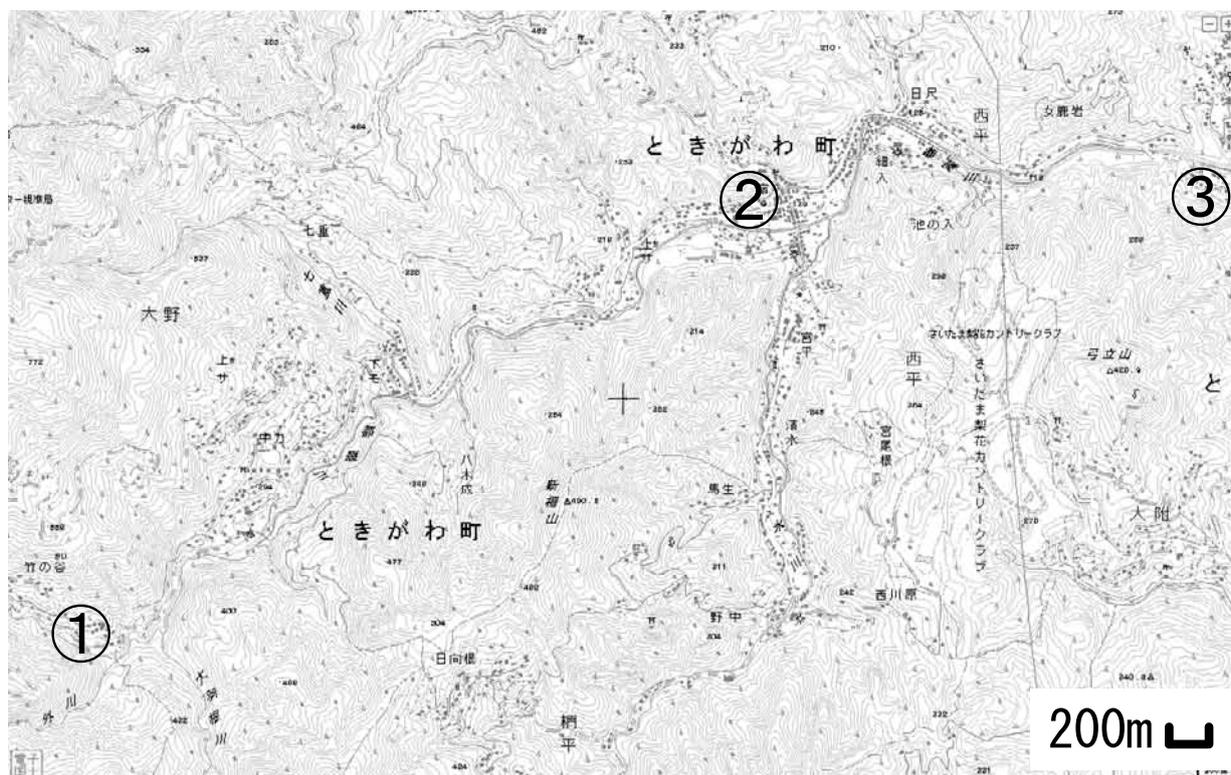


図1 2万5千分の1地形図「正丸峠」

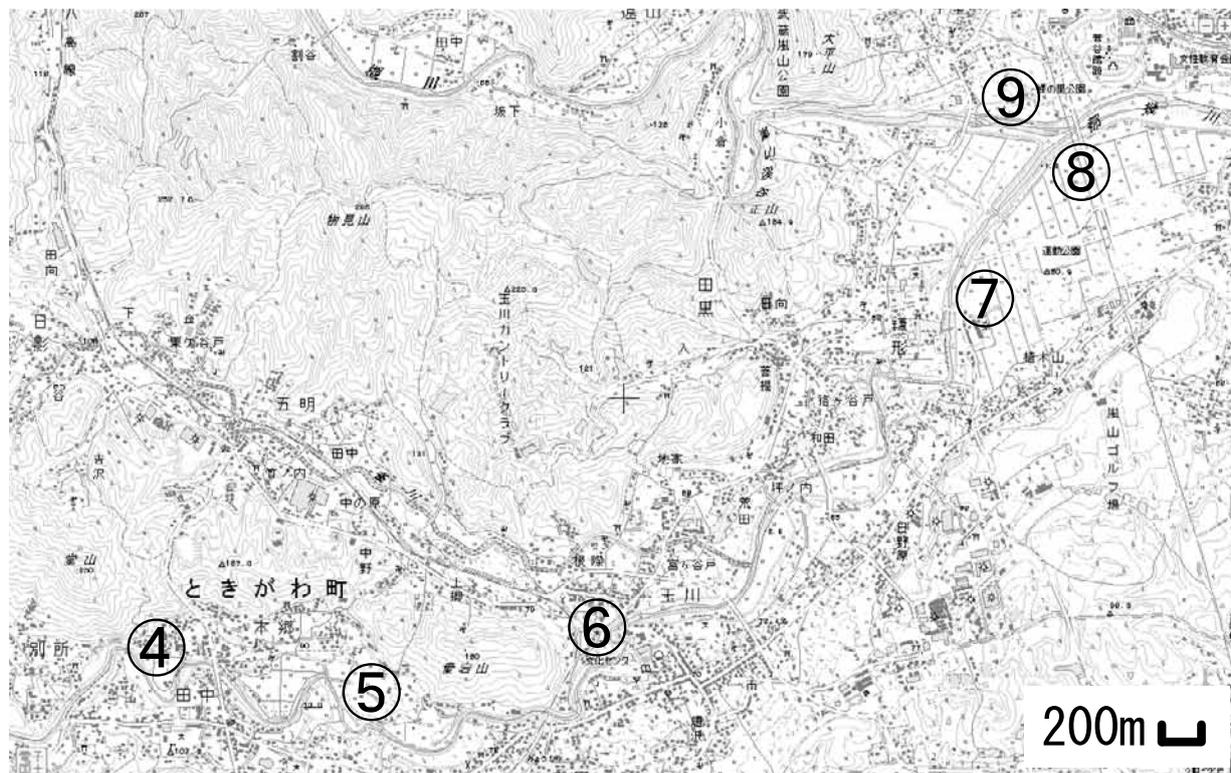


図2 2万5千分の1地形図「越生」

川水系でも外来のプラナリアが生息していることも考慮に入れ、水質判定を行わなければならない。

今後の課題

ルーペなどを用いて拡大し観察することにより在来のプラナリアと外来のプラナリアは区別可能である、先入観を持たずしっかりと観察するべきである。

今回の調査は冬期であったために夏期に追加調査を行い、資料の蓄積を行いたい。他県の報告では富栄養化した水域で確認されているため（2010 堀内）都幾川下流域や合流する越辺川、さらには入間川や荒川での調査も必要である。

参考文献

- 堀内雅人 山梨県における外来プラナリアの生息確認 山梨県衛生環境研究所年報, 第54号 (2010)
- 川勝正治ら：プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68,461-469 (2007)
- 環境省水環境部, 国土交通省河川局編：川のいきものを調べよう-水生生物による水質判定. (2003)
- 国土交通省関東地方整備局 河川部河川環境課編：水生生物による水質の簡易調査, 平成16年度. (2004)